

学生が病院と地域で切れ目なく精神看護学を学ぶために何ができるか、みんなで話し合ってみませんか？～病棟とデイケアの連携の取り組み～

○茅根 寛子¹⁾、渡辺 純一¹⁾、佐藤 英則¹⁾、小澤 秀之¹⁾、山上 充子¹⁾、小川 賀恵²⁾

1)公益財団法人 井之頭病院、2)東京医療保健大学 立川看護学部

少子高齢化が加速する中、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステム構築の推進に向け、多職種が連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されています。その中で、看護職には患者の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められており、その能力を培うために、看護学実習では病院だけでなく地域などの場で実習を行い、保健・医療・福祉といった多職種との連携、協働を通して、多様な場で生活する人々への切れ目ない看護を学ぶことが重視されています。このような医療ニーズの変化に伴う教育カリキュラムの見直しを受け、精神看護学実習においても地域での実習時間を多く設ける学校が増えており、以前は2週間程度行っていた病棟実習を数日～1週間と減らし、デイケアや作業所など地域での実習に時間を多くとっている学校が見受けられます。病棟実習と地域実習にどのように時間を分配するかは様々で、学校の特色が出ている印象です。公益財団法人井之頭病院は精神単科病院で、精神看護学の実習場所として12病棟とデイケアを提供し、年間10校の実習を受け入れています。教

育カリキュラムの見直し以降、病棟の実習指導者は各学校でまちまちの実習期間に困惑しており、反対に実習校が増えているデイケアの看護師は指導の難しさを感じている状況にあります。また、同じ施設内であるにも関わらず、所属部署が異なるために実習指導者間の連携がとりにくく、お互いが何をどのように指導をしているのか共有できていない状況でもあります。病院と地域という実習場所において学生が切れ目ない看護を学ぶためには、組織として、また実習指導者として、どのような取り組みをしていけるのでしょうか。まずは病院の実習指導者から現状の報告と課題解決に向けた取り組みの報告、次に実際に当院の病棟とデイケアで実習をしている学校側からみた現状と課題についても報告してもらいます。そして、ご参加いただいた方々と一緒にディスカッションをしながら、病院と地域、実習指導者と教員がどのように連携すれば、学生が切れ目ない看護を学ぶためのより良い実習場を作れるかを検討していきたいと考えています。